

2024年度 短期海外研修 — 経営学部 —

シンガポールコース・ハワイコース

実施概要

経営学部の短期海外研修（シンガポールコース・ハワイコース）では、現地学習の成果を高めるべく、事前学習・事後学習をしっかりと行うことで、学生の思考・行動の自立性を高めるための教育プログラムとなっています。学生は、事前学習・現地学習・事後学習を通して、様々な能力を高めることを目指します。

事前学習では、両コースとも、シンガポールとハワイの歴史・経済・文化・産業政策・観光政策・観光マーケット、さらには日本との関係など幅広い分野の知識を深めた上で、各地の特徴や課題、解決策について深く考察しました。

事前学習を踏まえ、現地学習では、学生一人ひとりが自分の仮説を持って現地研修に臨み、それを企業訪問や現地での調査を通じて検証しました。この実地経験は学生にとって非常に価値のある学びの機会となりました。

また、事後学習では現地研修で得られた調査結果を基に、各自で解釈や分析を行い、成果発表を行ったうえで、レポートにまとめました。その成果の一部として、次頁以降でご紹介いたします。



淑徳大学 東京キャンパス
経営学部 短期海外研修委員会

シンガポールコース日程

- 1日目** 朝 羽田空港集合・出発
夕 シンガポール
チャンギ国際空港到着
- 2日目** 午前 現地学生との交流
午後 自由研究
夜 リバークルーズ
SPECTRA 視察
- 3日目** 午前 現地日系企業講話
午後 ラオパサフェスティバルマーケット
ホテル視察
夜 ナイトサファリ
- 4日目** 午前 リゾートワールドセンターサ視察
午後 自由研究
マーライオン公園
夜 ジュエル視察
チャンギ国際空港出発
- 5日目** 朝 羽田空港到着・解散

ハワイコース日程

- 1日目** 夜 成田空港集合・出発
日付変更線
- 午前 ホノルル国際空港到着
自由研究
- 2日目** 午前 HIS 訪問
午後 ホテル視察
XR バスツアー
- 3日目** 午前 自由研究
午後 自由研究
- 4日目** 午前 現地学生との交流
午後 自由研究
- 5日目** 午前 ホノルル国際空港出発
- 6日目** 午後 成田空港到着・解散

はじめに

2025年2月に、淑徳大学経営学部の短期海外研修が実施されました。9回目の実施となる今回、昨年同様にシンガポールコースとハワイコースの2コースが催行され、経営学部総勢71名の学生が参加しました。シンガポールコースは、経営学科21名、観光経営学科42名の学生が参加し、2月10日(月)～14日(金)に3泊5日の日程でシンガポールを訪れました。ハワイコースは、経営学科2名、観光経営学科6名の学生が参加し、2月16日(日)～21日(金)に4泊6日の日程で、ハワイ・ホノルルを訪れました。

短期海外研修は、学生の将来の目標に合わせた経験学習の場として、研修課題を決め、目標意識を持って取り組むことのできるプログラムとなっています。この研修は2年次後期に履修可能な選択科目であり、現地研修(現地学習)は、2年次が終わり、3年次になる前の春休みに実施されます。

経営学部では、この研修を通し、他国の社会や文化、宗教等を体験・学習することで、ビジネスのグローバル化に対応できるマナーや対人能力といった社会常識を身につけること、また、他国の企業・組織との交流を通して、グローバル人材に必要な知識・スキル等を認識することを研修の目的としています。

事前学習としては、日本とは異なる渡航先の法律、文化、考え方や危機管理などの確認を中心とした準備的な指導と、学生一人ひとりの自己の課題発見と現地での調査内容などを主体とした事前学習を行います。帰国後には、研修成果をグループ成果発表及びレポートとしてまとめるという事後学習を行います。事前学習・現地学習・事後学習という3段階のステップを踏むことで、短期海外研修の成果を高めることとしています。

本報告書には、帰国後に学生が研修成果をレポートとしてまとめたものの一部を掲載しています。このレポートの中では、参加学生が自らの好奇心と問題意識を持って研修に取り組んできた成果を書き記しております。また、成果までのプロセスの中で、自ら学ぶことによって得られる喜びや達成感、また解決策を見つけるための努力が、率直に記されています。こうした貴重な研修の成果を、本キャンパスの学生の学びの姿の一環として広く知っていただくことを願い、この短期海外研修報告書を上梓いたしました。

限られた紙幅の中、この報告書に掲載されている学生レポートは、参加学生数のほんの一部に過ぎませんが、ここで取れる成果は、他の全ての参加学生も共有していることを申し添えたいと思います。

なお、2024年度の短期海外研修については、経営学部ホームページでもご紹介していますので、ご覧くださいませよう、併せてお願い申し上げます。

淑徳大学 東京キャンパス
経営学部 短期海外研修委員会

研修の狙い

短期海外研修は、主に3つの学修成果を目的としています。

- 他国の社会や文化、宗教等を体験・学習することで、ビジネスのグローバル化に対応できるマナーや対人能力といった社会常識を身につける
- 他国の企業・組織との交流を通して、グローバル人材に必要な知識・スキル等を認識する
- 事前学習・現地学習・事後学習を通して、社会人として必要な能力を高める

事前学習	情報収集・整理能力
現地学習	ヒアリング力、観察力、記録力
事後学習	情報比較・分析能力



研修の内容

主な訪問先と研修内容

(シンガポールコース)

2025年2月10日(月)～2月14日(金) (3泊5日)

他民族国家であり、スマートシティ先進国であるシンガポールでは、多様性や持続可能な生活環境などグローバルな課題を学ぶことができます。

シンガポールコースでは、ビジネスの特徴及び持続可能な観光のための課題点と解決策についての現地調査を行いました。

*2つの統合型リゾート視察

ビジネス地区中心部に立地し、ビジネス層向けのマリーナベイサンズ、及び郊外に立地し、家族向けのリゾート・ワールド・セントーサの視察による統合型リゾートの社会への経済効果やカーボンニュートラルの取組視察

*ラグジュアリーホテル視察

①フラトンホテル

1928年に建設された新古典主義の重要建築物で、国家史跡である五つ星ホテルの視察

②オアジアリゾート・セントーサ

健康とウェルネスについてのアクティビティやワークショッップが豊富なホテル視察

*現地日系企業調査

パソナシンガポール

- ・パソナによる世界展開・事業概要とシンガポールへの日系企業進出の最新動向
- ・地方創生事業例として訪日外国人もターゲットとした淡路島事業展開
- ・先進国であり、他民族・多文化・多言語国家としてのシンガポールの経済的、文化的、教育的特徴
- ・海外で働くことの意義・やりがい
- ・様々な背景・価値観を持つ他者を受容・理解するコミュニケーションの大切さ

日本航空(株)シンガポール支店

- ・シンガポール日系企業の人件費上昇、就労ビザ発給厳格化、賃料高騰に起因する課題
- ・JALの運航の歴史と企業再建の道程
- ・JALの企業理念、JALフィロソフィの理解促進の取組
- ・部門別採算制度による全社員の経営参画
- ・JAL中期経営計画のローリングプラン2024のビジョンとESG戦略による航空事業展開
- ・JALグループが求める人材像と人的資本投資による企業成長

*現地学生との交流

11グループに分かれ、グループ毎に設定したコースで、現地学生と一緒に公共交通機関や徒歩にて、思い思いの場所を訪問

(ハワイコース)

2025年2月16日(日)～2月21日(金) (4泊6日)

ハワイでは、様々な民族の文化が融合して育まれてきた多様で独自の文化や、自然・文化を守り継承していくための持続可能な地域社会の実現への取組を学ぶことができます。

ハワイコースでは、企業の循環型社会及び再生型観光のための課題点と解決策についての現地調査を行いました。

*現地日本企業調査

日本からの観光客数・レスポンシブルツーリズム・ハワイの再生型観光政策と旅行代理店の責任と役割

HISハワイ コーポレーション

- ・数字で見るハワイの基礎情報
- ・ハワイ観光の現状・海外で働くこと
- ・ハワイでの生活

*ラグジュアリーホテル視察

①アウトリガー ワイキキ パラダイス ホテル

昨年10月に新設されたホテルで、地元アーティストが構想に参加したクラフトホテル視察

②アウトリガー ワイキキ ビーチコマー

景観・音・味でワイキキスピリットが感じられるクラフトホテル視察

③ハレクラニ

100年の伝統と温かみのあるホスピタリティを守りつつ、ホテル内のあらゆる場所からハワイの美しく神聖な海の景色を楽しむことが可能なラグジュアリーホテル視察

*再生型観光地視察

再生型観光を推進するため。オーバーツーリズムの解消と自然保護の対処法の視察
ダイヤモンドヘッド、ワイキキビーチ、ロイヤルハワイアンセンター、ワイキキトロリー (Hi-bus)、ワイキキ・ビーチ・ウォーク

*XRバスツアー体験

ホノルルの人気スポットとXR(クロスリアリティ)を融合させ、ハワイの伝説に語られる海中都市を冒険する没入型エンターテイメントを体験

*現地学生との交流

2グループに分かれ、グループ毎に設定したコースで、現地学生と一緒に公共交通機関や徒歩にて、思い思いの場所を訪問

自分の可能性を広げる機会となったシンガポール短期海外研修

経営学部経営学科 O. A.

短期海外研修の履修の理由

今回、シンガポールでの短期海外研修に参加した理由は、海外での生活を実際に体験し、新しい価値観を得るためである。これまで海外に行った経験がなく、現地での生活や文化に直接触れることで、自分の視野を広げたいと考えた。また、大学の充実したサポート体制により、初めての海外でも安心して挑戦できる環境が整っていると感じたことも大きな理由である。

シンガポールは多民族国家であり、多文化が共存する国である。事前学習を通じて、観光業が経済に与える影響や、持続可能な観光の課題について学び、現地での体験をより深いものにしたいと考えた。また、英語でのコミュニケーションに挑戦することで、実践的な語学力を身につけることも目的の一つであった。

事前学習で得た知識と期待

出発前には、グループでシンガポールの観光業と持続可能な発展について調査を行った。観光地が密集していることで、大量の観光客が集中し、エネルギー消費や廃棄物の増加、公共施設の過剰利用といった問題が発生していることを知った。また、観光の発展が住民の生活環境にどのような影響を与えるのかについても考察した。



シンガポールでは環境保護に関する取り組みが進んでおり、ゴミの分別が徹底され、清潔な街づくりが行われていることも学んだ。こうした知識をもとに、現地での実際の様子を観察し、日本との違いを感じ取ることを楽しみにしていた。

現地での体験と学び

シンガポールに到着し、現地の観光地を訪れる中で、事前学習で得た知識が実際にどう活かされているかを確認することができた。特に驚いたのは、街の清潔さと整備の行き届いた環境である。予想以上に観光客が多かったが、ゴミ箱がいたるところに設置されており、分別も徹底されていたため、想像していた以上に清潔な街並みが保たれていた。

また、バスでの移動中に渋滞に巻き込まれる場面があった。観光客の増加が交通に与える影響について考える良い機会となり、事前学習で取り上げた課題を現地で実際に確認することができた。一方で、この渋滞が観光客の影響なのか、それとも現地の住民の増加によるものなのか、さらに深く考察する必要があると感じた。

現地での交流と企業訪問

2日目には、現地の学生と交流し、チャイナタウンやマ

リーナベイエリアを訪れた。チャイナタウンでは、中国の雰囲気を感じながら街歩きを楽しんだ。マリーナベイエリアでは、マーライオン公園を訪れたが、残念ながらマーライオンは修復中で姿を見ることができなかった。しかし、このような予期せぬ出来事も、現地での体験の一部として貴重な経験となった。

また、現地学生との会話を通じて、異文化コミュニケーションの楽しさと難しさを実感した。英語での会話は最初こそ緊張したが、相手がゆっくり話してくれたり、ジェスチャーを交えてくれたことで、自然にコミュニケーションを取ることができた。

3日目には、日本企業のシンガポール支社であるパソナとJALの講話を聞いた。特にパソナの講話では、「海外で働く際には、日本人としてのアイデンティティを持ち、それを活かすことが大切」という言葉が印象的だった。文化や価値観の違いを理解し、それを受け入れる姿勢が、グローバルに活躍するためには不可欠であると学んだ。海外でのキャリアを考えるうえで、大変貴重な機会となった。

大学のサポート体制と研修の意義

今回の研修では、大学のサポートの充実ぶりを実感する場面が多くあった。事前学習での準備だけでなく、現地でのフォローアップも手厚く、安心して学ぶことができた。また、グループワークを通じて仲間と協力しながら学びを深める機会が多かった。

ホテル視察では、高級ホテルの客室や設備を見学し、観光業における「おもてなし」の重要性を学んだ。実際にホテルの雰囲気を感じることによって、観光業の最前線で働く人々の努力を身近に感じることができた。

今後のキャリアへの影響

この研修を通じて、海外での仕事や生活に対する興味が



一層深まった。異文化の中で働くことの意義や、日本人としての強みを活かす方法について考えるきっかけとなった。また、英語でのコミュニケーションに対する苦手意識が減り、今後さらに語学力を向上させたいというモチベーションにつながった。

特に、現地の人々が異文化を受け入れ、共存している様子を目の当たりにし、多民族国家ならではの文化の違いを尊重する姿勢の大切さを学んだ。この経験を活かし、将来的には国際的な環境で活躍できる人材を目指したいと考えている。

後輩へのメッセージ

短期海外研修は、自分の価値観を広げる絶好の機会である。特に、海外経験がない人や英語に自信がない人にこそ、ぜひ参加をお勧めしたい。現地に実際に行き行って体験して、自分の知らない世界を知ってほしい。多民族国家のシンガポールでは、『文化や生活の違う人を受け入れる』という考え方が浸透されていることをいたるところで感じた。違うことは当たり前であり、違うからダメということはないのである。後輩にはこの考え方を現地で感じて身につけてほしいと思った。

また、現地での学びは、座学では得られない実践的な経験となる。観光業の実態を直接見て学ぶことで、教科書では得られない貴重な知識を得ることができる。さらに、同じ目的を持つ仲間とともに学び、成長できる環境が整っている。大学の充実したサポートもあり、初めての海外でも安心して学ぶことができる。

この研修で得た経験は、今後のキャリアや人生において大きな財産となる。一歩踏み出して挑戦することで、新たな世界が広がることを保証する。もし海外研修に興味があるなら、ぜひ参加を検討してほしい。

シンガポールで学んだ多様性を尊重する心

経営学部観光経営学科 M. Y

1. 短期海外研修の履修の理由

私が短期海外研修を履修した理由は、主に2つある。

1つ目は、自分の視野を広げるきっかけになると思ったからである。これまでと変わらない環境で過ごしていると、新しい価値観や考え方に触れる機会が限られてしまう。そのため、自分とは異なる考え方を持つ人々と交流し、異なる文化に触れることで、様々な視点から物事を捉えて、自分の固定観念を見直し、新しい考え方ができるようになるのではないかと考えた。



2つ目は、海外に興味があったからである。これまで一度も海外に行ったことがなかったため、日本とは異なる環境や文化を実際に体験することで、異文化理解を深め、今後の人生の糧になると思った。また、観光地やホテルなどでバリアフリーやユニバーサルデザインがどのくらい進んでいるのか、実際に見て学ぶ良いきっかけであると思い、短期海外研修を履修した。

2. グループでの学科課題

・事前学習

シンガポールは、中華系、マレー系、インド系など様々な民族で構成される多民族国家で、公用語はマレー語、中国語、英語、タミル語の4つの言語である。宗教は仏教、キリスト教、イスラム教、道教、ヒンズー教で多宗教国家でもある。多民族であるため、中国料理・インド料理・マレー料理などの本格的な味を楽しむことができ、マレー料理と中国料理が融合したプラナカン料理が伝統的な料理として有名である。また、チャイニーズニューイヤーの時期になるとチャイナタウンはカラフルな飾りで装飾され、獅子舞や爆竹などでお祭りムード一色になる。9月には秋の収穫を神に感謝するとともに中秋の名月を愛でる中国のお祭り「中秋節」があり、チャイナタウンは色とりどりの提灯でうめつくされるなど、それぞれの民族にまつわる行事やお祭りが開催される。

シンガポールの観光政策は、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイのようなエコツーリズム施設や、環境配慮施設のような



環境に配慮した政策を導入し、環境保護に対する意識を高める取り組みを行っている。また、世界の20の地域にシンガポール政府観光局地域事務所を展開し、ターゲット国を徹底的に調査し、ニーズに対応したプロモーションを展開している。

・現地での考察・分析

シンガポールの街を歩いていると、中国語や韓国語などが聞こえ、様々な言語が行き交っていた。実際にチャイナタウンへ行った時、雰囲気や街並み、建物が中国の文化を反映していることを実感した。このことからシンガポールは異なる民族で構成される多民族国家である中で、それぞれの文化や伝統を尊重していることを現地で実感した。また、観光地や道路の案内板、飲食店のメニューなどが英語だけでなく中国語やマレー語で書かれており、様々な言語に対応していることから、シンガポールを観光する人々のニーズに対応していると感じた。

3. 現地での成果・所感

シンガポールは、スーパーや飲食店など支払いをするほとんどの場面でキャッシュレス決済が進んでおり、現金を使わずに生活できる環境が整っていると感じた。また、地下鉄に乗る際クレジットカードやデビットカードを改札にかざして通過できることを、現地の学生から教えてもらった。日本はまだ現金払いが多く、交通機関では地域ごとにICカードが異なるため、シンガポールの方が日本よりも発展している部分が多いと実感した。

そして、シンガポールで実際に訪れた観光地の中では、マライオン周辺にスロープや階段昇降機が設置されており、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイではエレベーターが整備されているなど、多くの方が訪れる場所でバリアフリー対応が進んでいると感じた。

4. 後輩に履修を勧める理由

私が後輩に履修を勧める理由は3つある。

1つ目は、安心して海外に行けたことである。私は今回の短期海外研修で初めて海外に行くことになったため、最初は何をしたらよいのかわからず、とても不安だった。しかし、事前学習や講義を通して、その国で気をつけなければならぬことやパスポート・書類の準備、入国審査の手続きなど1つずつ丁寧に教えてもらえるため、一度も海外に行ったことがない人でも安心して参加することができると感じた。

2つ目は、英語への関心、学習意欲が高まったことである。シンガポールでのホテル視察の際に全て英語で説明を受けていた時、聞き取れないことや意味のわからない単語があった。他にも理解しづらい場面があったため、もっと英語を学んで、自分でスムーズに理解できるようになりたいと感じた。また、現地の方とコミュニケーションをとる時、自分が言いたいことを伝えるために英語を話せるようになりたいと思った。実際英語が使われている環境に行くことで、英語の重要性を改めて実感することができたため、学習意欲が高まった。

3つ目は、自分が成長するきっかけになったことである。初めての海外だと、その国のルールや文化、言語などわからないことが多い。しかし、普段と違う環境に身を置くことで、自分で調べ、現地の方に聞くなどして積極的に行動することができた。そのため、何事にも挑戦することの大切さを学んだ。また、異なる価値観や文化の理解を深めることによって、自分の考え方の幅が広がるきっかけになった。

以上の理由から、短期海外研修は安心して海外に行けるだけでなく、英語への興味・関心を高め、自分の成長へと繋がる貴重な体験であるため、履修を勧める。



言語の重要性を感じたシンガポール短期海外研修

経営学部経営学科 T. S.

1. 短期海外研修の履修理由

まず初めに、短期海外研修の履修の理由について説明する。私が短期海外研修を履修した主な理由は、元々海外に興味があり、その中で授業の一環として海外に行って学ぶことができる短期海外研修を通して、日本とは違った環境に行き、その国ならではの文化や社会性に触れ、自分自身の将来の視野を広げたいと考えたからである。他にも、実際にシンガポールで講話を聞くことで、現地ならではの考えを学ぶことができると思ったからである。事前学習としてシンガポールの基本情報を調べまとめることで、現地を訪問した際に、より興味を持ち好奇心が生まれると思ったからである。また、シンガポールで有名な観光地に興味・関心があったからである。マーライオンや夜景などを目で確かめることや、現地の人や観光客の人たちとコミュニケーションを取ることで、コミュニケーション能力も向上させることができると考えたからである。

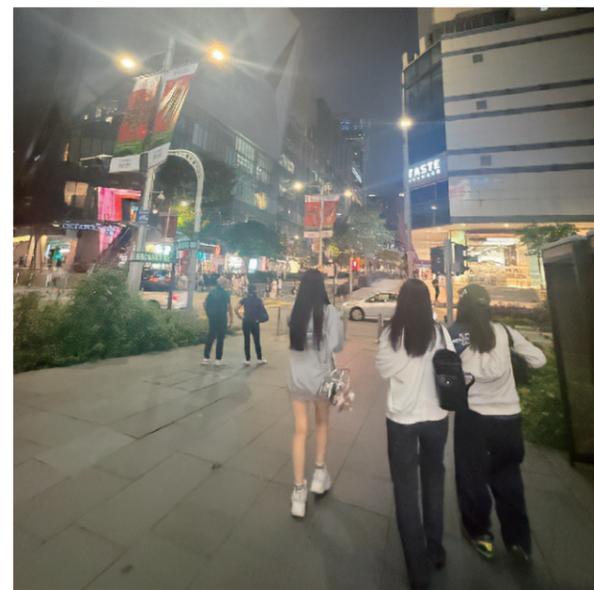
2. グループでの学科課題

事前学習によると、シンガポールは東京で表すと23区ぐらいの広さしかない小さな国であるが、観光政策などで経済発展している国である。主要な宗教は、仏教、イスラム教、ヒンドゥー教、キリスト教であり、多文化社会であることを頭に入れておく必要がある。それぞれの宗教にお



いて重要な日がシンガポールの祝日となっており、様々なお祭りが開催されるのである。シンガポールのGDPは、近年の日本より上回っており、平均年収は約365万円、世帯所得の平均は月額約93万円となっている。シンガポールの時間外労働は日本より約27時間多い事実もわかった。こうしたことから、事前学習をした中でシンガポールは物価が高いと予想をしていた。

現地の考察・分析として、多文化の面では、予想していたとおりであった。お店の店員さんなど様々な国の人が働いていた。お店だけではなく、チャイナタウンやアラブストリートなど異文化を取り入れた観光地もみられ、多くの観光客で賑わっていた傾向がある。また、実際にシンガポールに行き一番衝撃を受けたことは、物価や生活費が高いということだ。事前学習の時点で物価は高いと確認していたが、コンビニの水2Lは約800円、ランチも1回あたり2000円弱が相場であるため日本と比べると生活費が多かかると肌で感じた。しかし、地下鉄やバスなどは日本よりも少し安いまたはそれほど変わらない傾向があった。物価が高いことでシンガポールは経済が安定していたり、サービスが高品質だったりシンガポールの良さが街並みに表れていると考えられた。



3. 現地学習の成果・所感

現地学習の成果は、多民族国家であるため様々な人々と多く触れ合う機会があり、英語力が改めて大事になってくると感じた。日本ではない国で生活をする中で、自分から進んで行動することが重要であり、日本では経験できないことを短期海外研修で経験でき、自分の自信にも繋げることができた。シンガポールは多民族国家であり、様々な国の人やお店が街中に広がっていることが印象的であった。例に挙げると、ドン・キホーテ、スシローやセブンイレブンがあり多民族を尊重している特徴があった。多民族としての特徴を積極的かつ柔軟に取り入れていることも、国の発展や安定に繋がっている理由であると感じた。また、事前調査として、「ガム持ち込み禁止」「基本的に禁煙」「深夜公共の場での飲酒禁止」など、日本にはないルールがシンガポールにはマナーとして国で法律が定められていた。実際に現地に行き街を歩いてみると、治安が非常によく、清潔な街並みが続いている印象があった。料理面では、チキンライス・ラクサ・チリクラブが民族料理として親しまれている。ホーカーセンターという有名な屋台では、平日、祝日関係なく、現地の人や観光客で大賑わいな場所であり、日本にはない雰囲気味わうことができたい機会であった。

現地学習の所感について説明する。最初は、日本にはないルールがたくさんあったため、過ごすには注意が必要で厳しい国だと感じていた。他にも、自分がシンガポールに行く前よりも想像以上に多言語が街中に飛び交っていたこ

とのインパクトがとても大きく、より英語でのコミュニケーションが大事であると改めて感じることができた。また、多民族国家であるため、色々な建物の雰囲気や街並みを味わうことができ、訪問する前よりも多様性を感じることができた。日本とは違い、現地の人たちが気軽に声をかけてくれるなどコミュニケーションが豊かな国であり、日本ではあまり味わうことができない体験をすることができたことが印象的である。

4. 後輩へ履修を勧める理由

私が短期海外研修を勧める理由は2つある。1つ目は英語力の大事さについて学ぶことができるからである。日本では、あまり英語を発揮する場面はないが、実際に海外に行き現地の人とコミュニケーションを取ることで、英語の大切さを改めて感じることができコミュニケーション向上にも繋がるからである。スマートフォンで翻訳機を使いながら会話を交わすよりも、英語が喋れたらさらに海外旅行が充実したものになると実感することができたからである。2つ目は、多文化理解が向上することである。実際に現地に行ってみないと理解することができない点、日本とは違う現地の特徴などを、短期海外研修を通して得ることができるからである。海外に行くことで自分自身の将来の視野を広げられるきっかけになったり、異国で生活することで自信にも繋がったりするため、柔軟力や適応力を向上させられるいい経験になるからである。また、大学や旅行会社からの手厚いサポートのもと参加できるため、挑戦しやすい環境であるといえる。これらの理由から、私は後輩に短期海外研修への履修を勧める。



多文化共生社会を実感したシンガポール短期海外研修

経営学部観光経営学科 H. N

1. 短期海外研修の履修の理由

私が短期海外研修（シンガポールコース）を履修した理由は、大学で学んでいることを実際に海外に行って目で見て感じ、自分の視野を広げていきたいと思ったからです。また、今まで学んできた専門的な知識を実践してみる機会になると考えたからです。シンガポールは、多民族国家であり、多文化共生社会が特徴です。この環境で学ぶことにより、異なる文化や価値観を尊重する姿勢、国際的なコミュニケーション能力を高めることができました。また、シンガポールは観光業も多国籍であるため、多様な文化背景を持つ人々が集まり、観光業のマネジメントやマーケティングにおいても国際的な視野が求められると思います。これらのことから、この短期海外研修を通じて異なる文化に対する理解を深められるようになると考え、履修をしました。

2. グループでの課題

・事前調査

シンガポールにおける持続可能な観光のための課題点に関して、事前調査で2つに絞り込みました。1つ目は、シンガポールは物価が高いため、ビジネスをする上で様々な金銭面での問題が発生してくると思うので、そこをどう解決していくかが課題となります。また、国内の少子高齢化の進行や、経済格差という課題にも直面していることがわかりました。

・現地での考察・分析

シンガポールの物価が高く、コンビニで1.5Lの水が5.6ドルなど日本円で620円ほどすることに驚きました。観覧車に乗るのに40ドル、植物館に入るのに70ドルなど、日本よりも圧倒的に物価が高いことがわかりました。そんなシンガポールはさまざまな物価が高いことで知られており、特に不動産価格や生活費、商業施設の賃料などが企業にとって大きな負担となります。企業が物価の高い環境に適応するためには、効率的な経営が求められることがわかりました。AIを導入して、業務の自動化やコスト削減を図ることや、シンガポール政府の企業支援策や税制優遇などの助成金を提供しているため、これらの支援を活用

することでコストを削減していくことも大切だと感じました。

また、少子高齢化については、現在シンガポールの人口ピラミッドは年齢層が高いほうに偏ってきています。シンガポールでは外国人労働者の受け入れが一般的であり、特にインドや東南アジアからの労働者が多く活躍しています。しかし、シンガポール政府は近年、外国人労働者の受け入れ制限を強化しており、企業は労働力の確保に苦しむ場面が増えてきました。また、高齢者の雇用促進政策やシニア層向けのビジネスモデルが増加しており、この分野にもビジネスチャンスが存在しているといえます。

3. 現地学習の成果・所感

私は短期海外研修を通じて、様々なことを感じ、学ぶことができました。まず、異文化理解が深まり、シンガポールの多文化社会の中で人々がどのように共生しているかを実際に体験することができました。街を歩いているだけでも、様々な人種の人や文化が調和して生活している様子を目の当たりにし、文化的な多様性が尊重されていると実感しました。また、現地で企業の方に話を聞き、シンガポー



ルのホテルの様子や、どのように効率的な都市づくりを進めているのか、ビジネス面での先進的な取り組みを学ぶことができました。さらに、シンガポールの現地の学生と交流することで、学び方や価値観の違いにも触れることができました。例えば、シンガポールの学生は非常に自己主張が強く、主体的に学んでいる様子が印象的でした。そのような環境で過ごすことで、自分もより積極的に学び、考える力を養うことができたと感じています。加えて、現地での生活を通じて、語学力やコミュニケーション能力が向上しました。シンガポールでは英語が公用語の1つであるため、日常生活や学びの中で英語を使う機会が多く、実際に使ってみることで自分の英語力がまだまだなことにも気付くことができました。また、現地の食文化や街並みなども体験し、自分の視野を広げることができました。これらのことから、シンガポールでの現地学習は、勉強面だけではなく、異文化交流や生活を通じて多くの学びを得ることができ、今後の学問やキャリアに役立つ経験となりました。

4. 後輩へ履修を勧める理由

私がこの短期海外研修の履修を勧める理由は、2つあります。1つ目は、今まで学んできた専門的な知識を実践的に学ぶことができることです。話を聞いて、勉強することも大切ですが、実践的にやってみることで勉強していた内容がより身につくと思います。2つ目は、自分の視野を広げることができることです。特にシンガポールは多民族国家なので色々なルーツを持つ人たちが集まっています。そのため色々な文化があるので、普段日本では感じられないことを体感できるので、自分の視野も広がると思います。言葉も英語だけではなく、色々な言語が飛び交って

いたりして言葉話すのも難しかったです。そのため、もっと語学力をあげていきたいと思いました。私は、今回海外に行くのが初めてだったので最初は不安や緊張でいっぱいでしたが、先生方たちが常にサポートして下さる環境だったので、異文化の中でも安心して行動することができました。海外に行くことは不安も大きいと思いますが、授業で行くことで安心して色々なことを学ぶことができるので、私は短期海外研修の履修を勧めます。



異文化に触れる楽しさを実感したシンガポール短期海外研修

経営学部経営学科 U. A.

短期海外研修の履修の理由

今回、シンガポールでの短期海外研修に参加した理由は、海外での生活を実際に体験し、新しい価値観を得るためである。これまで海外に行った経験がなく、現地での生活や文化に直接触れることで、自分の視野を広げたいと考えた。また、大学の充実したサポート体制により、初めての海外でも安心して挑戦できる環境が整っていると感じたことも大きな理由である。

シンガポールは多民族国家であり、多文化が共存する国である。事前学習を通じて、観光業が経済に与える影響や、持続可能な観光の課題について学び、現地での体験をより深いものにしたいと考えた。また、英語でのコミュニケーションに挑戦することで、実践的な語学力を身につけることも目的の一つであった。

事前学習

シンガポールに渡航するにあたり、同国のビジネス環境の特徴と課題について事前に考察を行った。シンガポールは税制優遇が充実し、インフラと効率的な物流システムが整備されているほか、優秀な人材を確保しやすいという点が特徴として挙げられる。一方で、人材の獲得と育成の強化、生産・物流の再編、高齢化社会に伴う労働力不足といった課題にも直面している。

シンガポールはグローバル化が進む一方で、企業間の競争が激化している。多国籍企業が集積することで、差別化や新規参入が重要な課題となり、企業には独自の強みを打ち出す戦略が求められる。加えて、日本と同様に高齢化社



会へと移行しつつあり、移民政策の推進や高齢者向け住宅の整備といった対策が必要不可欠となっている。

日本とシンガポールのビジネス環境には、いくつかの大きな違いがある。日本では「長時間労働」や「終身雇用」などの制度が一般的に定着しているのに対し、シンガポールでは効率的な働き方やワークライフバランスが重視されている。このように、それぞれ異なるビジネス文化を持つ両国は、それぞれの強みを活かしながらも、共通する課題に対して柔軟に対応しようとしていることが分かった。

現地での考察・分析

実際に現地を訪れた際、チャイナタウンの飲食店は朝11時頃から開店する店舗がほとんどで、日本との運営スタイルの違いを強く感じた。日本では早朝から営業を開始する店舗も多いのに対し、シンガポールではランチタイムからの営業が主流であり、ワークライフバランスを重視した働き方が浸透していることが分かった。

2日目のB&Sプログラムでは、現地の学生と交流し、異文化間でのコミュニケーションの楽しさと難しさを実感した。最初は言語の壁を感じる場面もあったが、お互いに理解し合おうとする姿勢があることで、次第に自然に会話ができるようになった。言葉だけでなく、ジェスチャーや表情を使ったコミュニケーションの大切さも改めて実感した。

移動には電車を利用したが、事前に調べていたとおり、シンガポールでは電車内での飲食が厳しく禁止されてい

た。実際に乗車してみると、そのルールのおかげで駅構内や車内が非常に清潔に保たれていることがよく分かった。こうした厳格なルールが、街全体の環境美化につながっていることを実感し、日本との違いを改めて考えさせられた。また、街の至るところにゴミ箱が設置されており、ゴミを適切に処分しやすい環境が整っていることも印象に残った。結果として、ポイ捨てがほとんど見られず、美しい街並みが維持されていることに驚かされた。

3日目はパソナとJALの企業講話を聞いた。特にパソナの講話の中で「外国に行けば自分が日本人代表である自覚を持つ」という言葉が印象に残っている。日本の外に出れば「外国人」であることの認識をこの講話から持つようになった。これまで私は、日本で外国人を受け入れる立場であったが、実際に海外に出ることで自分自身が「外国人」として行動する立場になることを実感した。この経験を通じて、自分が日本人としてどのように見られているのかを意識し、責任ある言動を心がける必要性を学んだ。そして、お互いの違いを理解して、知ろうとすることが大事である。また、海外で働くために求められるスキルとして、日本語力、英語力、異文化理解、文化尊重、コミュニケーション能力、迅速な対応力、そして自分のアイデンティティを持つことの重要性についても学ぶことができた。海外で仕事をする上では、単に語学力を高めるだけでなく、異なる文化や価値観を理解し、それを受け入れる姿勢が必要不可欠であることを再認識した。この講話を通じて、グローバルな環境で働く際の心構えやその魅力について、より深く考えるきっかけとなった。



4日目には、セントーサ島でのホテル視察を行った。視察したホテルは、それぞれ明確なターゲット層を設定しており、それに応じたデザインや設備が工夫されていた。例えば、ファミリー向けのホテルでは、かわいらしいデザインの客室や屋外プールなどの設備が充実しており、ホテル内だけでも十分に楽しめる環境が整っていた。一方、ビジネス向けのホテルでは、シックで落ち着いた雰囲気が演出されており、仕事に集中しやすい空間づくりがなされていた。こうした客層に合わせたホテルづくりは、観光客の満足度向上に寄与し、リピーターの増加にもつながっていると考えられる。

後輩へ履修を勧める理由

私はこの短期海外研修を通して、海外に実際に行くからこそ見たり感じたりして、新たな体験を得ることができたと思う。ぜひ後輩の皆さんにも、海外に足を運んでもらい、今まで見たことのない景色を見たりや新たな体験をしてほしい。実際に見て、聞いて、感じたものは一生の思い出になると思う。少しでも海外に興味がある人は、この授業を履修してたくさんのことを学んで欲しい。また、知らない土地や慣れない環境で行動することは、自分の力試しになり、現地の人とコミュニケーションを取ることができるいい機会でもあると思う。現地に行ったからこそ多国籍文化を受け入れることの大切さを改めて考えられる機会にもなったので、そういった外国の文化に触れることの楽しさを感じつつ、大学の友達と素敵な思い出を作ってほしい。

新たな視点を得ることができたシンガポール短期海外研修

経営学部観光経営学科 Y. K

1. 短期海外研修履修の理由

短期海外研修を履修した理由は3つある。

1つ目は、今まで海外に行ったことがなく学校の授業として行くことで安心して海外に行くことができると考えたからである。社会人になるまでに一度は海外に行ってみようという思いがあったので、この機会を逃したくないと思い履修することにした。

2つ目は、友達と異国の地で長い時間共に過ごすことで普段の学校生活よりも深く関わることができ、より強い絆を築くことができると考えたからである。同じゼミの人とはゼミ合宿など数日共に過ごすことはあるが、他の人と長時間共に過ごす機会はほとんどないため履修することにした。

3つ目は、全く知らない場所で過ごすことが自分にとって刺激となり、さらに成長することができると考えたからである。日本には感じることができない異文化や常識に触れ、新しい価値観や考え方を身に付け成長につなげたいと思い、履修することにした。

2. グループでの学科課題

・事前学習

事前学習としてシンガポールの持続可能な観光についてグループで考え、課題を2つ挙げた。

1つ目は、世界最速の高齢化ということである。2023年

時点で5人に1人が65歳以上、2030年までに4人に1人が65歳以上になると予想されているというデータから労働人口の減少により人材不足に陥り、それによって観光客の受け入れも困難になるという問題点を明らかにした。また、解決策として近隣諸国からの就業目的の移住促進政策、移住者の支援活動を行うことを考えた。

2つ目は、スマートシティ化である。シンガポール政府はスマートネーション構想を掲げ、都市全体のデジタル化を推進している。この点は先進国の技術の進化によるもので良いことである反面、観光においてはデメリットがあると考えた。テクノロジーへの過度な依存により、インフラ障害やサイバー攻撃の被害を受けた際、深刻な影響を及ぼす恐れや、高度な技術に対応できない観光客が不便な思いをすることになるという問題が起ると予想した。解決策として、ハイブリッド型システムの導入により現金決済を残すことで、すべての観光客に対応可能な体制を維持すること、レジリエンス強化として、障害に備えたバックアップシステムを整えスムーズな運営を可能にするということと考えた。また、シンガポールは多民族国家でありスマートシティ化が進むことで、地域文化が失われる可能性があるという問題点を挙げた。解決策としては、デジタル技術はあくまでも文化紹介の補助として活用し、観光客の現地での体験を補完する形とすることや、地域文化のデジタルアーカイブ化を進め、地域文化を継承する仕組みを作ることを考えた。



・現地での考察・分析

事前に考えた課題について注目し現地での活動に取り組んだ。

高齢化については、現在は日本とは大差がなくあまり心配する必要はないと考えた。しかし、チャイナタウンなど所々高齢化の影響を受け、人手不足に陥っていると予想される観光地もあった。そのため、事前に考えた解決策は有効な方法であると考えた。

スマートシティ化については、キャッシュレス決済のみの施設は現地での活動の中で一軒もなく、日本よりも現金とキャッシュレスの両立が可能であると感じた。スマートシティ化によって、観光地として悪影響を受けているということは特になく、逆に交通機関をクレジットカードで利用できるようにしていることなど、メリットが数多くあると気づき、日本よりも技術が発達していると感じた。また、技術の進歩により地域文化が失われるということもなく、残すべきものは形を変えず残すことができているという印象を受け、現状では事前に考えた課題について心配する必要がないと考える。

3. 現地学習の成果・所感

現地では事前に期待していたとおり、日本ではできない刺激的な体験を数多くすることができた。現地学生との交流プログラムでは、約4時間という短い時間ではあったが、現地の学生と共に過ごし、英語でコミュニケーションを取り、自分の英語力の現状を知ることができた。もっと話しておけばよかったという反省点はあるが、実際に話すことで、自分の自信につながった。

ゼミでバリアフリーやユニバーサルデザイン、多様性について学んでいるため、シンガポールの取り組みなどには

注目して過ごした。地下鉄ではバリアフリーの取り組みが数多く見られた。各車両の接続部分と車両とホームの間は段差がなく、日本の電車よりも高齢者や車いす利用者にとって利用しやすい環境が整えられていると感じた。また駅に停車し乗降可能な時間が日本の電車と比べても長いという点も、バリアフリーの一環として考えられる。日本の電車は時間設定を細かく停止時間をより短くしている印象があるが、シンガポールの地下鉄は誰もが安心して乗降できる時間設定になっていると考えた。

シンガポールは多民族社会であり、それぞれの文化を1つに融合するのではなく中華系はチャイナタウン、ムスリム系はアラブ・ストリート、インド系はリトル・インディアとそれぞれの文化に特化した街を形成することにより人種を問わずすべての人が快適に生活することが可能になるように工夫されていると感じた。観光客としてはそれぞれの街がすべて異国のようで満足度が高まり住民と観光客の双方にとって理想的な構造になっていると感じた。

4. 後輩へ履修を勧める理由

添乗員や教員が引率し安心して行くことができるため、1度も海外へ行ったことがなく、いつか行きたいという思いがある学生には履修を強く勧めることができる。

どこを見ても知らないものばかりで何事も刺激になり、自分に良い影響を与えると今回履修をして学んだため、海外へ行く機会があればぜひ行くべきだと思い、短期海外研修の履修をすることが可能な学生には履修を勧める。



異文化理解の重要性を実感したハワイ短期海外研修

経営学部経営学科 G. K

短期海外研修に参加した理由

今回、ハワイでの短期海外研修に参加した理由は、海外での生活を実際に体験し、視野を広げたいと考えたためである。普段の生活では、日本の文化や価値観に囲まれており、海外の人々の考え方に触れる機会は限られている。しかし、これからの時代、国際的な感覚を持つことは非常に重要であり、自分の成長にとって大きな意義があると考えた。ニュースやインターネットを通じて海外の情報を知ることができるが、実際に現地生活し、現地の人々と直接関わることでしか得られないものがあると考えた。

また、将来のキャリアにも役立つ経験ができると考えた。現代の社会ではグローバル化が進み、国際的な視野を持つことも大事になってきた。海外での経験を通じて、自分の視野を広げ、異文化に対する理解を深めることは、将来の仕事や生活において大きな強みになると考えた。特にハワイは多くの人種や文化が混ざり合っている地域であることから、そうした環境の中で、異文化の理解や多様性への意識を高めることができるのではないかと考えていた。

また、大学のサポート体制が整っており、初めての海外研修でも安心して参加できる点も決め手となった。特に、事前研修で基礎知識をしっかりと学び、現地でのサポートも受けられることから、現時点での自分の英語力に自信がない状態でも挑戦できる環境が整っていると感じた。

事前学習で得た知識と期待

出発前には、グループごとにハワイの歴史や文化、経済について事前学習を行った。ハワイは観光地として有名だが、先住民の文化やアメリカとの関係など、歴史的な背景が複雑であることを学んだ。特に、ハワイ王国の歴史や、観光業が地域経済に与える影響についての調査は、現地での学びをより深いものにする助けとなった。ハワイがアメリカ合衆国に併合されるまでの過程や、先住民がどのように暮らしていたのかを知ることで、単なる観光地としてではなく、一つの地域社会としてのハワイを理解することができた。

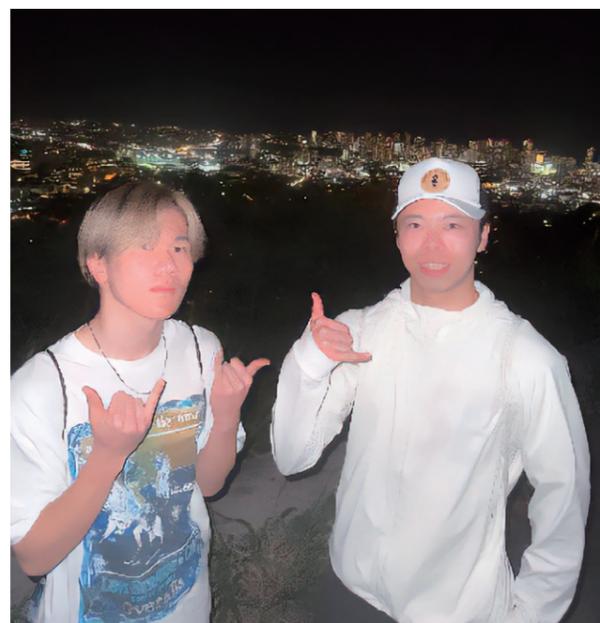
事前学習を通じて、ハワイは多文化が共存する場所であることも知った。日本、中国、ポリネシア、アメリカなど、さまざまな文化が融合しながらも、それぞれのアイデンティティを大切にしていることを知り、現地の人々の生活に

触れながら、自分の価値観がどのように変わるかを楽しみながら学んでいた。また、英語力向上も目的の一つであり、実際に英語を使って現地の人とコミュニケーションを取る経験は、自分の成長につながると期待していた。特に、観光業が発展している地域では、日本人観光客が多いことから、日本語が通じる場面もある一方で、英語でのコミュニケーションが求められる場面も多く、実際に学んだ英語を活用する機会になると考えていた。

現地での体験と学び

実際にハワイに到着し、現地の人々と交流する中で、観光業が地域社会に与える影響を直接感じることができた。現地の方々は観光客に対してとても親切で、英語で話しかけると、こちらが聞き取りやすいようにゆっくり話してくれたり、身振り手振りで伝えようとしてくれる場面が多かった。このような温かい対応のおかげで、英語での会話に対する抵抗が少なくなり、自信を持って話せるようになった。

また、日本とは異なる文化にも触れることができた。例えば、ハワイの人々は日常の挨拶をとっても大切にしており、見知らぬ人同士でも気軽に声をかける習慣がある。こうした文化を体験することで、異文化理解の重要性を実感した。さらに、ハワイでは日本食も身近な存在であり、多く



のレストランで日本の味を楽しむことができた。これは、ハワイと日本の文化的なつながりを実感できる要素の一つであった。

現地学習の成果・所感

今回の海外研修を通じて、異文化理解の重要性を改めて実感した。国際的な感覚を身につけることは、将来のキャ



リアにおいて大きな強みとなると確信している。例えば、将来グローバルな仕事に就く際、今回の経験が役立つと考えられる。また、海外での経験があることは、就職活動の際にもアピールポイントとなる。

さらに、英語でのコミュニケーションに対する苦手意識が減ったことも大きな成果である。現地での経験を通じて、完璧な英語を話す必要はなく、積極的に伝えようとする姿勢が大切であることを学んだ。これからも英語学習を続け、さらにスキルアップを目指したいと考えている。

後輩へ履修を勧める理由

短期海外研修は、視野を広げるだけでなく、自分自身の成長につながる絶好の機会である。特に、英語に自信がない人や海外経験がない人にこそ、ぜひ参加をおすすめしたい。

また、現地での学びは、座学では得られない実践的な知識を身につける絶好の機会である。日本の常識が通じない場面に直面することで、自分の価値観を見直すきっかけにもなる。さらに、同じ目標を持つ仲間とともに学び、成長することも大きな魅力である。

この研修を通じて得た経験は、今後の人生において必ず役立つものになると確信している。もし海外研修に興味があるなら、一歩踏み出して挑戦してほしい。新たな世界を体験できることを保証する。

この短期海外研修は、自分を成長させる貴重な機会であり、多くの学びを得ることができた。今後も、この経験を活かしながらさらなる成長を目指したいと考えている。

ハワイで学んだホスピタリティの本質

経営学部観光経営学科 I.R

短期海外研修の履修の理由

私が短期海外研修を履修した理由は、2つある。

1つ目は、私は今までに海外を訪れた経験がなかったからである。日本の、勝手がわかる環境や既に訪れたことのある土地にとどまらず、初めての場所を経験してみたいと感じたからである。

2つ目は、自らの目で、観光で成り立つ地を見てみたいと感じたからである。沖縄と比較されることの多いハワイだが、観光消費額や滞在日数は沖縄を大きく上回っている。また、事前学習では、依存傾向にあるといえるほど、観光とのかかわりが大きい地域であることを学んだ。観光に頼りきりになるのは良いとは言えないが、沖縄を訪れる観光客の観光消費額や滞在日数を増やすべく、観光で成り立つハワイから学べることは何か、を考えたいと感じたからである。

グループでの学科課題 - 事前学習

「ハワイにおける再生型観光のための課題点と解決策を考える」

ハワイにおける再生型観光を学ぶために、私たちは、最初に、ハワイで定義されている再生型観光について調べた。ハワイでは、再生型観光は、「新しい持続可能な観光 (New sustainable tourism)」と定義されている。これは、①滞在地を滞在前よりも良くして離れること、②旅行者が地域に入り込むことで意義深く豊かな観光体験を得ること、③住民と旅行者が良い関係を築く機会となること、といった3つの要素から構成されているものである。

また、ハワイには40年ほど前から源流ともいえるような概念が誕生していたことも、事前学習から学ぶことができた。それが「思いやりの心」を意味する『Mālama Hawaii (マラマ ハワイ)』という言葉であり、ハワイを思いやる心を大切にしよう、という概念であった。

これらを踏まえて、課題点と解決策について考えた。私たちは、主に3つの課題があるのではないかと考えた。

1つ目は、環境への負荷である。ハワイの人口を超えるほどの観光客数によって、自然環境に悪影響が及んでいるのではないかと課題点である。調べていくと、実際に、ハワイ大学の海洋研究所が、COVID-19による“コロナ禍”

を経て、ハワイの海(ハナウマ湾)がきれいになった、生息する海洋生物の数が増加した、サンゴ礁の白化現象が見られなくなった、という調査結果を発表していたことが分かった。それ以前にも休業日が設けられていた区域であったが、コロナ禍による長期閉鎖が最も効果的な環境保全方法であったことが明らかになり、人間が環境に悪影響を与えてしまっていることが明確になった。この水質向上を受け、解決策として、従来よりも大幅な人数制限やオンライン予約制度、休業日の増加、値上げ等が行われるようになった。また、ハワイの人気観光地であるダイヤモンドヘッドも、オンラインでの予約が必要となる人数制限が開始となるなど、観光地を訪れる観光客数を管理しようという動きが強まっている。

2つ目は、文化の損失である。人口よりも観光客が多い現状から、文化が薄れてしまうのではないかと考えたからである。解決策として、2023年に実施された企画を基にした、ハワイの歴史や文化を伝えることができるツアー等が有効なのではないかと考えた。

3つめは、観光産業の有益化の難しさである。大型のショッピングセンターや有名ブランドに焦点が当たってしまい、地元の企業や商店などの経営が難しくなってしまうのではないかと考えたからである。解決策としては、政府の



財源からの補助金や新たな観光地開拓によって、オーバーツーリズムの解消を図ることで、持続可能な観光サイクルの構築につなげることができるのではないかと考えた。

グループでの学科学習 - 現地の考察・分析

実際に現地を訪れ、ハワイの再生型観光に向き合っていると、事前学習で学んだ内容や、反対に事前学習の際に私たちが考えていたこととは異なる現状と出会った。

事前学習で最初に挙げた、環境への負荷については、実際に人数制限が行われているダイヤモンドヘッドに登頂した。入り口で、係員さんにQRコードを読み取ってもらってから上っていくという、仕組み作りがされていた。ハイキングコースは、前日の晩に雨が降った影響で、水たまりになってしまっている場所があった為か、登山客と下山客がすれ違うのに苦労する箇所もあり、安全性のためにも、人数制限の必要性を感じさせられた。登頂部の展望台も、周囲の観光客を写さず、景色を撮影することが、困難なのではないかと感じてしまうほど観光客で溢れかえっていた。さらに、宿泊地からほど近いワイキキの海は、連日サーファーや海水浴客で賑わっていた。日本では、四季によって海に入ることでできる季節は限られてくるが、一年中穏やかなハワイの気候においては、あらかじめ日数の制限を行う等の工夫が重要となる。現地学習を通じて、ハワイの自然がいかに多くの人々に愛されているかを実感すると同時に、その自然を守るための制限の必要をより一層強く感じた。

2つ目に挙げた、文化の損失においては、私たちの想像とは異なっていたと感じた。私たちの想像以上に大切にされていることが感じられたからである。私たちがワイキキにたどり着いたころ、ワイキキのランドマークともいわれるロイヤル・ハワイアン・センターでは、地元アーティス

トによるフラダンス・ミュージックショーが行われていた。まるで歓迎されているかのようであれしかなかったが、驚いたのは観覧している人の多さであった。ショッピングセンターの一角で、あれだけの人を引き付ける力のある、魅力的な伝統文化を過小評価してしまっていたのではないかと反省した。また、私たちは、イオラニ宮殿を訪れた際にも、ハワイ王朝の歴史を感じながら、ツアーに参加する人の多さに衝撃を受けた。オンラインでの予約が必須でありながら、関心をもって学ぶ他の観光客の姿勢に背筋を正される思いがした。現地を訪れるまで知り得なかった、他の観光客の、ハワイの文化に対する意識を垣間見ることができ、文化の損失は私たちが懸念を抱くほどの大きい壁ではなく、むしろ新しい持続可能な観光の2つ目、旅行者が地域に入り込むことで、意義深く豊かな観光体験を得ることが達成されていると感じた。

最後の観光産業の有益化の難しさにおいては、現地での学習・現地学生との交流の際に個人で営まれているお店にも案内をもらったが、品ぞろえの豊富さに加え、私たちのほかにもお客さんがいらっしやっている様子を見ることができた。ガイドブックには載っておらず、SNSで注目されているというお店もあったので、SNSで旅の情報を収集する若者以外にも広く宣伝することができれば、オーバーツーリズム解消に向けて前進できるのではないかと感じた。

加えて、事前学習で課題点として挙げていた、環境への負荷に関連し、企業訪問でHISホノルル支店では、HISが提案している新しいハワイ旅行として「マラマ旅行」とい



うものがあることを学んだ。「マラマ旅行」は、ハワイ版のレスポンシブル・ツーリズムのことである。その中でも、『ゲンキ・アラワイ・プロジェクト』は、ワイキキの北側から西側を囲むようにして造られたアラワイ運河を、7年かけて綺麗にしようと2019年に発足したプロジェクトである。土地の発展とともに汚れてしまったアラワイ運河を、かつての泳げるほどきれいな姿にするため、沖縄県の琉球大学で開発されたEM（有用微生物）という善玉菌の集合体を泥団子のように丸め、運河に投げるのである。これを、大学や企業、専門学校にお勧めしている最中なのだという。EM泥団子の作成は60分ほどで、その後2週間の乾燥が必要となる。その為、参加者には、泥団子の作成と、スタッフの作成した泥団子を運河に投げる過程を体験してもらう。実際に、魚が泳ぐ姿が目撃されるなど、その水質は改善されつつあり、住民にとってプラスの影響が出ているといえる。参加者、特に企業においては、CSR（企業の社会的責任）をアピールすることができる。新しい持続可能な観光の3つ目、住民と旅行者がより良い関係を築く機会となること、に繋がる。

さらに、ダイヤモンドヘッドの登山口には給水スポットが設置されており、新しい持続可能な観光の1つ目である『滞在地を滞在する前よりも良くして離れること』に繋がり得る対策であると感じた。

現地学習の成果・所感

研修期間中、現地環境に触れ、日本との様々な違いに新鮮さを覚えることばかりであったが、社会だけでなく、現地の人々の温かさを向ける範囲の広さにも驚かされた。ハワイ到着後、私たちはフードコートで昼食をとることにした。でき上がった商品を取りに行き、友達の待つ席へ戻ると、フードコートの清掃を行っていたキャストさんが、



テーブルを拭いたのちに、自然に椅子を引いてくれたのだ。一流レストランではなく、フードコートでエスコートをされたのは初めてであった。ほかにも、現地学生がお土産を買ったエコバッグが重くないかと聞いてくれたり、飲食店では、店員さんが定期的に声をかけて、気にかけてくれたりと、観光客に対しての壁のなさを感じる事ができた。私は、日本では心の温かさを向けるのは主に内向きで、身内や友達といった範囲になりがちという印象を持っていた。日本を訪れている観光客に対しては、怖いと感じてしまうこともあった。そのため、人気観光地に暮らす人々はこんなにも寛容なのかと驚いた。また、同じフードコートで、隣の席同士であった、観光客らしき日本人男性二人組と、ハワイ生活が長そうな日本人女性が話している場面を目撃した。会話の内容まではわからなかったが、男性側が女性に質問をしているようであった。日本では、知らない人との会話を避けるような動きが強まっているように感じていたが、ハワイは日本人の心までも温かくオープンにしてしまうようであった。思い返してみると、私も、ハンバーガー屋さんで日本人女性に「列に並んでいますか？」と話しかけられた際、それに答えるだけでなく、会話をしていた。普段の私では考えられないほど、スムーズに会話を続けることができていた。私も、現地の人々の温かさに良い影響を受けていた。履修を決めてからも、海外へ行くことに対して、不安が強くなってしまったり、国内旅行で満足したような気になってしまっていたりしたが、自ら体験することでしか触れられないものがあることを、今回の短期海外研修で感じる事ができた。

後輩への履修を勧める理由

短期海外研修に参加する以前に海外に行った経験のなかった私は、ハワイに到着するまで、さまざまなことに不安

を感じていた。言語の違いやチップの文化、治安や法律など、調べ学習を進めるほどに、日本の外に出るとはこういうことか、強く意識せざるを得なくなったからである。しかし、現地に着いてみると、現地の人々は、観光客に対して非常に親切であった。言語の違いについては、私たちのつたない英語を、単語の組み合わせから理解しようと耳を傾けてくれたり、さりげなく日本語のメニューを渡してくれたりすることもあり、言語の違いに対する不安は次第に和らいでいった。チップや治安、法律については、どのような場面で注意すべきか、調べ学習を通して把握していたため、現地では冷静に、適切な行動をとることができた。事前に情報を得ていたことで、安心して現地学習に取り組むことができた実感した。

短期海外研修の履修によって、調べ学習の重要性を改めて認識する機会となったことに加え、自ら異なる環境や文化に触れることで得られる学びの多さを実感した。現地学習以前に感じていた不安以上の驚きと達成感を感じる事ができ、もう一度、新たな環境に飛び込んでみたいと感じることが出来るようになった。私のような、海外経験がない人にとっては、先生のサポートや個別にも相談に乗ってもらえる環境がある短期海外研修は、非常に心強いプログラムである。不安を抱えている人こそ、大きな学びを得ることができると思うので、後輩への履修を勧める。

観光地や交通機関などのバリアフリーやユニバーサルデザイン

現地学習で、観光地や交通機関などのバリアフリーやユニバーサルデザインに目を向けてみると、車いす利用者や足が不自由な方などへの配慮が多くみられると感じた。ヒルトンガーデンインワイキキビーチの一階にあるレストラン、マーケットにはそれぞれ、車いす用昇降機がついていた。また、二階部分がスーパーマーケットとなっているワイキキマーケットにも、巨大なエレベーターが設置されていた。同じように二階部分がレストランとなっているルルズには、車いす利用者用の案内



表示がされていた。さらに、ワイキキ市内を走っているトロリーバスには、車いす用のリフトがついていた。ほかにも、公園の入り口にスロープがついているなど、私たちの見ることができた段差・階段のある施設のすべてに車いす用の案内やエレベーターなど、バリアを取り除くための工夫を見ることができた。

現地学生との交流

現地大学生とは、朝9時から4時間の交流が予定されており、事前学習として大まかな行動予定を立てていた。私たちは、ホテルを出発した後、インターナショナルマーケットプレイスにて買い物を行う。その後、有名なアイスクリーム屋さんでアイスを食べ、ワイキキビーチへ向かうというスケジュールであった。しかし、インターナショナルマーケットプレイスの多くのお店の開店時間は10時であり、私たちが見たいと考えていたお店も開店前であった。事前調べを徹底しておくべきであったと反省したが、その場では切り替え、ビーチに先に行くようにプランを変更しても良いかと提案することで、それ以降、有意義な4時間の交流となった。提案するまでは、英語への苦手意識もあり緊張していたが、快く提案を受け入れてビーチやお勧めのお店を案内してくれたり、ゆっくりとお店を見て回る私たちを急がすことなく待っていてくれたりと、次第に現地学生のやさしさが伝わって、緊張が解けていくのを感じた。その後は、呼び名を聞くなど会話ができるようになり、英語で話すことへの苦手意識も少し和らいでいくのを感じることができた。だが、完全に苦手意識がなくなるまでは、これまで以上の学習が必要だと感じるのので、続けていきたい。